

様式2		令和4年度 清瀬市立清明小学校 学校評価表				
学校教育目標		育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動				
明るく豊かな心をもち 進んで学ぶ児童の育成 ○よく見つめよく考える子 ○親切で思いやりのある子 ○健康でたくましい子		<ul style="list-style-type: none"> ・自分他の方も大切にし、お互いに助け合う児童及び主体的に学習に取り組む児童の育成 ・児童の基礎的・基本的な学力を保障するための授業改善の実施 ・地域の物的、人的教育材を生かした教育活動を展開 ・持続可能な社会づくりに向けた教育活動の実施 ・NPO法人と連携した補習学習「パワーアップタイム」の実施 				
目指す学校像(ビジョン)		<ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ楽しさがある学校・人のかかりを大切にし、仲良く助け合う優やさしさあふれる学校 ・心と体の健康づくりに取り組み、生き生きとした元氣あふれる学校・家庭及び地域に信頼される開かれた学校 				
【目指す学校像】		共に学び 共に育ち 笑顔あふれる清明の子				
【目指す児童・生徒像】		教育公務員としての使命感と責任感を持ち、チーム清明小として何事にも挑戦する。				
【目指す教師像】						
前年度までの学校経営上の成果と課題						
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的学力の定着に向け、朝学習やパワーアップタイムの指導内容を見直し、年間計画を作成することができた。また、全職員での校内研究の実施により、児童一人一人の探求課題を大切にすることができた。 ・基礎的・基本的な学習内容の確実な定着が喫緊の課題である。教員が課題を自分事として捉え、課題に対し学校全体で組織的に指導を行う体制をつくる。 						
柱	具体的方策	自己評価		学校関係者評価	次年度以降の改善方策	
		評価	課題及び次年度以降の改善方策(案)	学校関係者による「自己評価」についての評価	学校関係者評価の結果を踏まえた改善方策	
確かな学力の向上	朝学習年間計画に沿い、算数や国語の基礎的・基本的な内容の繰り返し指導を推進する。算数では、習熟度別学習内容で指導に当たる。行事作文、単元ごとの振り返りを書くことに取り組む。	3	4	朝学習やパワーアップタイムでの取り組みにより基礎的・基本的な内容の習熟に取り組んだ。診断シートの平均正答率は、4月37%から11月は61%と向上が見られたが、十分とは言えない。次年度も、引き続き内容を精査しながら朝学習、パワーアップタイムを取り組む。また、算数ノートのひっ算や式の書き方の基本を統一する。国語は行事作文や朝学習の国語で短作文に取り組みたい。書く分量が増えたり、書くことへの抵抗感がなくなってきた児童が増えた。次年度は今年度取り組んでいたことは継続して実施し、国語が校内研究を進めるので、朝学習は、月4回を書く課題、ページックドリル課題、研究内容に即した課題、学級で活用する時間とする。	パワーアップタイムの丸付けをしていると、繰り下がりの筆算間違えがある。算数ノートの筆算の指導はとても重要。全てを統一する必要はないが、基本的な部分は統一した方がいい。学校支援本部の丸付けボランティアは子供たちが頑張っている様子が見られて楽しくできている。	今年度取り組んでいたことは継続して実施する。算数は、内容を精査しながら朝学習、パワーアップタイムを取り組むを行う。また、算数ノートの筆算や式の書き方の基本を統一する。国語の校内研究を進めるので、朝学習は、月4回を書く課題、ページックドリル課題、研究内容に即した課題、学級で活用する時間とする。
	学習のねらいを明確にし、めあて達成のための学習活動を工夫する。タブレット端末やICTを活用し、「分かる」「できる」授業づくりに取り組む。	3	4	1時間毎のねらいを明確にし、振り返りを大切にすること、タブレット端末やICTを活用した授業展開を考慮することの2点について全教員で取り組んだことで、児童の「わかる」「できる」という意識が高まった。児童アンケートの肯定的意見も9割を超えた。タブレット端末のドリルソフトを活用することで、基礎的・基本的な内容の習熟にもつながった。タブレット端末とICTの活用について、さらに研修を深めていく。職員研修を行い教員のICT能力を高める。	タブレット端末を授業の中で積極的に使用していることはよい。作文をタブレット端末に書かせることもよいが、実際に紙に書くことも重要である。また、漢字も変換ですぐにできてしまうので覚えるのが難しくなるのではないかと、タブレット端末を何に活用すべきか考える必要がある。	引き続き、ねらい、振り返りを行い、めあて達成のための学習活動を工夫する。ICTを活用した授業の充実を図るため、各教科の特性に応じたタブレット端末等のICTの活用について、職員研修実施していく。
豊かな心の育成	月1回のアンケート、いじめ防止対策委員会を開催し、いじめの未然防止、早期発見、早期解決を図る。また、年3回実施のアセスを活用し児童の学級での様子を把握する。また、SOSの出し方教育を5年生以上で実施する。	4	3	いじめ及びそれに類推される事態が発生した際には、校内のいじめ対策委員会を中心に早急に対応を行い、深刻化する前に早期対応に結びつけることができた。また、定期的なアンケートと聞き取りがいじめの予防及び早期発見につながった。併せて、アセスの活用で、児童の様子を客観的に把握し、児童理解や学級指導に生かすことができた。SOSの出し方教育は5年生以上で実施。学期の初めに困ったことへ相談できる大人に相談することについても生活指導から講話している。次年度も、アンケート、アセスSOSの出し方教育を実施する。また、アンケートが形骸化しないように、アンケートの種類を増やす。	学校での取り組みがHP等で保護者に伝わるとともに、児童アンケートの結果は肯定的な意見が高かったなどアンケートやその後の聞き取りの成果ではないかと、いじめに繋がる出来事がないと保護者は学校の対応の仕方は分からない。	引き続き、月に1回の定期的なアンケートと聞き取りを行い、いじめ等の早期発見につなげる。また、アセスの活用や、全学年でSOSの出し方教育も行っていく。アンケートが形骸化しないよう、アンケートの内容を検討する。保護者に伝わっていない面があるので、4月の保護者会ではいじめ防止基本方針について周知する。
	週1回の朝読書を担任も一緒に読む。年2回の読書週間を充実させ、読書に対する意欲を高める。また、学校図書館支援員と連携し、ブックトークや読み聞かせ等を実施し、読書への関心を高める。	3	4	昨年度と比べて児童の肯定的な回答が10%程度増えた。今年度は、コロナ禍でできなかった読み聞かせボランティアを実施することができた。図書室の環境整備ボランティアを実施し、装飾や座って読書できる畳コーナーを整備し、より児童が親しみやすい環境を整えた。読書に対し否定的な意見が児童の2割いる。これは図書室やクラスにある本の種類が少ないことが原因の一つと考えられる。改善方策として、タイムブックを使って児童に読みたい本アンケートを行い、児童の興味のある本を知り、公立図書館との連携し、調べ学習の図書だけでなく、読み物の図書も定期的に借りる。また、家庭から自分のお気に入りの本を学校に持たせ、読書させ、本に触れ合う機会を増やす。また、図書館司書支援員による読み聞かせや公立図書館のブックトーク、ヒビリオパールの活動は継続する。さらに、次年度は地域支援本部と連携して、読み聞かせを実施する。	図書室の環境が図書ボランティア活動により大変よくなった。読書環境を整えるために保護者の会でもベルマークで本を購入した。まず、児童が本に興味を持てるようにすることが大切である。	公立図書館との連携し、調べ学習の図書、読み物の図書を定期的に借り、本の充実を図っていく。また、リサイクル本の利用や、寄付等で学校図書館の蔵書の充実を図る。図書館司書支援員による読み聞かせや公立図書館の連携は継続する。さらに、地域支援本部と連携した、読み聞かせを月1回程度実施できるようにし、読書への興味関心を高める。
健やかな体の育成	栄養職員と連携して毎日の給食指導や食育授業を通して、正しい食習慣を確立する。	3	3	昨年度と比べて児童の肯定的な回答が20%上昇した。今年度実施した総合的な学習の時間や、社会科、特別活動等での栄養職員と連携した授業の充実を図る。また、給食指導中に行う栄養や食事のマナー等の指導を来年も継続する。	家庭で給食の話題はほとんどないので、分からない。家では学校の話をしないことが多い。	引き続き総合的な学習の時間や、社会科、特別活動等での栄養職員と連携した授業の充実を図るだけでなく、食育、給食指導の取組をHP等で発信していく。
	体育の学習においてコーディネーショントレーニングを取り入れ、体力の向上を図る。本校の課題である柔軟性の向上に向け、授業で柔軟運動を取り入れていく。	3	4	それぞれのコーディネーショントレーニングの動きに適した領域で適宜実施した。長縄跳びの記録会を実施でき、概ねの学級が記録を伸ばした。日常的に遊ぶ児童が増えた。定期的なOJTとして体育の授業を行った。体力テストの結果、力強い動きと巧みな動き、柔軟性に課題がある。力強い動きや巧みな動きを日常の遊びの中で高められるように、チャレンジカード(仮)を作成し、中休みと昼休みに外遊びをすることを奨励する。柔軟性を重点的に高める領域を設定し、柔軟性を高める準備運動を取り入れる。コロナ前に行っていた体育朝会を再開する。内容は体育館で検討する。	体力の向上のためには、授業だけでなく、外遊びや、家庭でも行っていくことが重要である。	力強い動きや巧みな動きを伸ばす。日常の遊びの中で高められるように、チャレンジカード(仮)等の活用や、中休みと昼休みに外遊びを奨励していく。年8回の体育朝会で持久走や縄跳び等の取組を行う。また、体育の授業においても課題の見られた力の向上を図る取組を学年で共通に実施していく。
特別支援教育の充実	特別支援教室の教員と連携し、研修会を実施するなど、教員一人一人がユニバーサルデザインの視点を取り入れた教室環境づくりを行う。	3	4	教室の壁面に関しては、今年度よりユニバーサルデザインの観点で学校で統一して教室前面に掲示を行わないようにした。従来の学校目標や校章・学年だより等も側面及び背面に掲示することで児童の集中力を削ぐ要因を減らした。また、クラスの状況によって教室の後ろに教卓を設置したり、宿題を出す場所として児童の集まる、児童の実態に応じて各担任が実施し、その成果を教職員で共有した。今後はさらに、ユニバーサルデザインで学校で取り組む項目を検討する。	個別に配慮が必要な児童の他、日本語が未習得の外国籍の児童に対しても、児童の負担を軽減できるように配慮が必要である。クラスブック活用ができるとういかもしれない。	教室前面に掲示を行わないなど、今年度まで行ってきたことを引き続き行う。さらに、ユニバーサルデザインで取り組む項目を検討し、学校全体で取り組んでいく。その際、日本語が理解できない外国籍の児童にはポケトークを活用したタブレット端末を活用したり等工夫していく。
	特別支援教室担任等と連携し、児童の実態を適切に把握するとともに、教員間で情報を共有し、個に応じた支援方法や指導を充実させる。	3	3	今年度もアセス、ふれあいアンケートそしていっただれ週間の実施等により児童が何か困っていたり悩んでいたりはす場合はすぐに聞き取り、対応した。また、その情報をもとに、児童の状況を把握し、声掛けや手立てを取れるケースがあった。今後も教職員で積極的に情報を共有し、組織的な対応を進めていく。併せて、家庭と密に連絡を取り合い、苦手意識や困り感をより改善できるように各教員が心掛けて指導にあたりたい。また、地域支援本部と連携し、個に応じた支援や指導がさらに進められないか、人材を模索していく。	個に応じた支援や指導ができるよう、さらに学校と地域支援本部と連携していく必要がある。	次年度もアセスの見取りをスクールカウンセラーと共に実施することで児童の学級における実態把握をしていく。Mた教職員でアセス、ふれあいアンケート、いっただれ週間の実施で、積極的に情報を共有し、組織的な対応を進めていく。併せて、家庭と密に連絡を取り合い、児童の苦手意識や困り感をより改善できるようにする。また、地域支援本部とも連携していく。
本校の特色	地域の豊富な教育材を活用し、体験的な活動を取り入れることで、児童が設定した課題について探究する学習を展開できるよう、授業改善を行う。	3	3	3年間にわたる生活科、総合的な学習の時間の研究を通して、全ての学年で児童の主体性を重視した年間指導計画を構築することができた。5、6年生に実施した総合的な学習の時間についてのアンケートの中で「総合的な学習の時間が好きだ」「総合的な学習の時間で自分が調べたいことに必要な情報を集めることができる」の2項目で肯定的な意見が8割を超えた。生活科、総合的な学習の時間を軸とした、児童の主体性を重視する学習活動は今後も継続して取り組んでいく。	学校支援本部や、清瀬市コミュニティハウスNPO法人きよせラボと連携し、多くの活動を実施することができ、大変よかった。	生活科、総合的な学習の時間を軸とした、児童の主体性を重視する学習活動は今後も継続して取り組んでいく。学校支援本部や、清瀬市コミュニティハウスNPO法人きよせラボ、企業等と連携し、教育活動を充実させていく。
	「下宿囃子」「円通寺ふさぎ」「ヒトアブ公園」「柳瀬川体験学習」等、地域の方から話を聞いた、実際に体験したりすることを通じ、地域に親しむをもたせる。また、今あるものをよりよく未来につなげる心を育成する。	4	3	地域支援本部との連携を学期に1回設定したことで、地域資源を活用した学習について、連携をとりにかかっていることができた。地域の方と話し合いを取り組んで学習について、これまで以上に周知していく。今年度、連携して取り組んだ内容は今後とも継続していく。新型コロナウイルス感染状況にもよるが、新たな学習活動への協力依頼や学習成果の発表の機会を設定していけるようにしていく。	地域支援本部と学年との打ち合わせを学期に1回実施したことで、希望に沿った支援を入れることができた。次年度も続けていきたい。	地域支援本部との連絡を学期に1回設定するとともに、連絡を密にして進めていく。さらに、地域資源を活用した学習の充実を図り、地域に親しむをもたせ、今あるものより未来につなげる心を育成する。

